

感想発表会 議事録

日時：平成14年5月14日（火）

場所：揖保川町文化福祉総合会館アクアホール

庶務 それでは皆様本日は大変お疲れ様でした。ここで休憩も兼ねまして、本日現地視察していただいた結果、お気づきになられた事とか、今後の委員会審議にて取り上げていただきたいとお感じになった事とかがありましたら、委員の皆様より一言ずつご発言いただきまして、それをもとに今月末27日に山崎町の会場で予定してございます第2回委員会で、揖保川の流域の現状認識について必要なテーマ出しをしていただくかたちになると存じます。そのために次回の委員会までにどういった準備をしたらいいかということも含めまして皆様のご意見を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。まずはお一方約2～3分ぐらいを目安に順番にご発言をいただければと思います。本日は委員会ではございませんので、一通り要望を庶務のほうで承りまして、今後の対応の参考にさせていただくというかたちにしたいと思います。それでは、お座りいただいた順番にいかがかと思います。井下田先生の方から順番にマイクを回しながらお話いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

井下田委員 改めて百聞は一見に如かずだなということを痛感しました。加えて、専門家の先生方の現場でのあれこれのご高説を伺わせていただきまして、とてもよい勉強になりました。本日は参加させていただいてとても嬉しく思います。

さて、本日参加させていただいて、大河揖保川を支える仕掛けや仕組みが、それこそ歴史的にもこの揖保川の地域に見事に蓄積されてきていることを感じました。先人の努力に加えて、行政の努力もまた並々ならぬものがあることが確認できたかなと思います。それにしてもやはり私どもにとって揖保川のこれからのあれこれを考える場合に、やはり体系的かつ総合的に考えることが重要であると思います。例えばの例で、浅見委員さんがさきほどこの部屋の外のところで言われましたように、私どもにとって揖保川と関わる自然をどう捉えたらいいのかということがあります。従来タイプの治水や利水に加えて、環境についてこれからの新しい百年を見通す観点でとらえるということになれば、やはり相当な科学的な知見の積み重ねと、併せて体系的整合性を持った検討の場がこの揖保川流域委員会にも求められているのかなということを感じたところで、以上で私の感想にかえたいと思います。

吉田委員 今日は参加させていただきましてありがとうございます。現地の先生方の説明に、改めていろいろなかたちで、河川も生きているんだなということを認識しました。以上です。

枋本委員 河川管理者さんから途中、川の流下能力のお話がありましたが、100年に1度の大水に耐えるような整備を進めているということですが、近年の要するに降った雨がすぐに川に入ってしまう構造が基本的には非常に問題があると思います。現在の流域の状態を保てるように、基本的には雨水を地面にしみ込ませ、一気に川の水を増やさないという工夫をし、できるだけ揖保川の自然環境を残してほしいというふうに思います。せっかくきれいに整備されたこの「揖保川せせらぎ公園」なのですが、すぐ目の前の川のところまで駐車場があって、車がそこまで入ってくるすることができます。あるいはなんでここまで来て運動しなきゃいけないのかということも感じられます。さっき浅見さんが言われたように、やはり川の自然環境の中で魚をすくったりエビをつかまえたり、そういうことができる環境が残るような整備を、整備というよりも現状維持をできるだけしていただきたいと思います。以上です。

庄委員 今日是一日参加させていただきまして、専門の先生方の説明を聞かせていただいたいへん勉強になりました。これからもこれを機にいろいろとご指導いただきたいと思っております。ちょうどこの前の川を見せていただきまして、右岸と左岸、本当にどちらがいいのか。整備されたのがいいのか、自然のままがいいのか。また自然のままですと、大変たくさんの木が生えておりますけども、あの木はあのみまでこれからずっと大きく成長していくのがいいのか、流水に支障を与えないのかなということをおもいました。

それからもう1点は、下流域と上流域ではやはり河川の整備の仕方や、状況がずいぶん違ってあるなというのが1つの感想です。

それから私は最近、一宮町のゼロエミッションの活動で山に入っておりますが、やはり揖保川ということを考える場合、揖保川の上流の山を見ることもまた1つ勉強ではないかなと思っております。以上です。

波田委員 今日はいろんな先生方のお話を聞かせていただきまして、大変有意義な一日だったと思っております。御礼を申し上げます。地質に関しまして屏風岩のところでお話しましたように、この地域はほとんどマグマ起源の火成岩に関わるような岩石が分布しているんですが、山崎町のせせらぎ公園のところだけが、流域を横切る形で堆積岩が分布しているところです。ほとんど泥岩で、非常に風化浸食に対しては弱い泥岩なんですけど、ああいうふうに河床に岩盤が出ておまして、火成岩に比べてずっと風化浸食に対して弱い岩石ですので不思議に思いました。それが山崎断層と関わる点と考えることもできるなと思っております。山崎断層が今度被害を与えるかたちで動かなければいいなということをおもいました。揖保川とはちょっと離れる感想ですが、以上です。

浅見委員 今日はどうもありがとうございました。私のほうからは一般的な話しかできなかったんですが、それにひきかえ地元の方の生活と密接した筏の話だとか、あるいは岩石に彫られている磨崖仏の話とかいろいろなお話が聞けて、やはり川というのは人あってこそだなという

気がしました。中でも、ものすごく面白いなと感じましたのは豊堤のところ。今の感覚からすると、風景よりもきちんとした防災のためにコンクリートを盛ってしまうのではと感じられますが、それよりも少々の被害はあるかも知れないけど豊堤にしたというあの心意気というのをもうちょっと深く掘り下げて考えてみたいなと考えています。

森本委員 山崎の森本です。宍粟郡は森林王国と言われています。今までは、私たちも山の中に住んでおりますので山林の手入れをよくしておりましたが、最近の若い人はあまり山に入りませんし、私ら年寄りも山に入らないようになりまして、山が非常に荒れてしまいました。今、庄委員さんがおっしゃいましたように、私たちはやはり山があって川があるんだと感じております。そういう意味で自然の山を大切にしないといかんなということをまず第一に思いました。

次に、私たちのし尿というものは、今まではすべて田んぼへ返しておりました。山崎町でもし尿は汲み取りに行ってもらってきて使っていました。それが今ではし尿処理場ができて、処理をして川へ流すようになりました。今年の4月から、山崎町の河東地区にも約1,000戸の処理ができるし尿処理場もできました。しかし、私が思いますに、人間がお腹から出したものは自然のものだから、自然へ戻せば何にもなくなってしまっただけで自然へ返ってしまうものだと、思っております。川を汚すのは自然のものでないものが川を汚すと思っております。そういうようなことで、処理するものは自然にないようなものを処理するということを考えたら良いのではないかなと思います。

それから下流のほうの川もずっと見せてもらいましたが、私たちの川という概念とは下流の川はずいぶん違うと感じました。手入れの方法、力の入れ方、お金の入れ方も非常に違うなというふうに思っております。よい勉強をさせてもらいました。これからもどうぞよろしく願いいたします。

和崎委員 今日一日回らせていただいて、今までいかに揖保川のことを知らなかったかということがよく分かった、というのが実感でございます。現地を回って感じましたことを、3点申し上げます。1つは治水という意味で堤防の関係です。それから2つ目は親水とか環境整備の現状とこれからの考え方。それから3つ目は自然を守る、自然を保全するという観点からの考え方についてです。自然を保全するという観点につきましては、まず浅見委員からのすばらしいお話を聞きながら、大変珍しいものも見せていただきまして非常に感動しております。治水につきましては、姫路に住んでおられてこれまでは「よう雨降ってるなあ」ぐらいしか思っていなかったんですが、洪水になると川は大変な状態になる、特に100年に1回の洪水がきたとき、流量が半分ぐらいしか流せないところが結構あるんだなということを初めて目の当たりにしました。庄委員もおっしゃっておられましたが、そこに住んでおられる方が堤防を高くしてほしい言われているという、生の声が聞けたというのは逆に治水に対しての考え方をもう一度考えさせられました。これまでの整備はやりすぎではないか。マスコミから聞かされて何かそんな感じもしていたのですが、まだまだたくさん考えていけなくちゃいけないところがあるんだなと感じました。

ただし、治水の考え方も自然との共存とか、親水環境整備とか、このあたりといかにリンクをさせてやっていくかというのは、これは地域なくしては考えられない話なんだろうと思いました。できれば川と山と人、地域と専門家が一緒になって考えて川の整備を実践するというかたちの流れが今後も広がって深まっていてもらいたいと思いました。併せて重要なのは、ここでもカヌーを浮かべるといった話がありましたが、子どもたちの教育だろうと思います。きっとこれから整備をされる環境は、今の子どもたちが大人になってもう一代継ぐというところに本当の成果が出てくるのではないかなと思っています。そういう意味からは、地域が一体になった運動として川への取り組みを考えるきっかけをどこかで作っていかないといけない。川のことを町の人知らないようでは駄目で、川をよくするために山をよくしようとかいうことを、地域が全体として考えていかなくはいけないのではと思っています。併せてこちら側と向こう側みたいな話なんですけど、まちづくりの話でどんな町によく人が集まるんだろうということを考えました。実は整備をされてしまうと人は集まらなくなってしまうという話がありまして、少しはかがわしいところがあったほうがいい。例えば暗い、何があるんだろうという路地があってそこに入っていくみたいな、そんな特性が人にはあるそうです。自然がかがわしいとは言いませんけれども、やはり何が出てくるのかな、マムシが出てきたら困るんですが、ある意味きちんと整備をしつくしてしまうのではなくて、やはり自然をできるだけ大切にしたいかたちの開発方法について、先ほどの地域と専門家が一緒になって考えていけないものかなというふうに感じました。

藤田委員長 まず1つは、ありがとうございます。勉強になりました。感想を言いますと、僕は揖保川というのは直轄で40数キロぐらいですから、比較的小さな川だと思っていたんですが、なかなか、簡単には切れないなというのが1つの感想です。

もう1点、最近環境省が自然共生型流域圏・都市再生というふうなかたちで、流域圏という言葉をよく使うようになっているんですけど、やはりなるほどなと実感しました。流域圏というのはすごくいい言葉だなと思いました。学生と水の問題を議論していても、どうしても産業界とか、あるいは都市と、水との関係という観点で見えてきましたので、むしろ揖保川のような自然が残っている非常に貴重な川は、実は非常に良い教育としてのフィールドではないかという感じがしました。もう少し若かったら、学生と一緒に泊まり込んでいろんな問題が抽出できたのではというふうな感じがしています。この委員会を通じましてあとしばらくは揖保川を見ながら、そこから新しいテーマや、自分にとっての新しい感動を見つけていければと思っています。

丸山委員 今日は上流から下流まで見させていただきまして、非常に勉強になりました。私の感じたことを申し上げます。やはり山崎から上流のほうに行くほど堤防の整備が出来ていないところがあるということを感じました。これから整備するにも、家がすぐそこまで来ているところもあり、なかなか難しい面もあろうかと思えます。そのあたりの山崎から上流部の堤防の整備に問題があるのではないかと思います。それから下流につきましては、堤防、それから河川の公園などが、かなり整備されており、周辺の住民の方がいろいろ利用されているのではないかと

と感じました。最初に井下田先生がおっしゃいましたが、この流域委員会、これからどういうふうな方向に導いていけばいいのかということを考えております。防災、環境、水質などがテーマとなっていくのだろうと思いますが、これをいかに具体化していくか、というあたりを私も今のところ悩んでいるところです。本日はどうもありがとうございました。

榎田委員 私は上流から下流までほとんど毎日のように行っておりますので、皆さんより揖保川のことを知っているつもりでいましたが、今日改めて上流・中流・下流と一日で回り、手付かずの自然がたくさん残っているということを改めて感じました。これを次の世代へどうやって残していくかということ考えたとき、今までのように、コンクリートブロックを張って護岸工事をやるとか、竹ヤブを切ってしまうたり、エノキ、ムクノキやヤナギを切って湧水を出なくしてしまうというようなことをこれからはやるべきではない。やはり多自然型の工法でやれないかなということ、今日つくづく感じました。

家永委員 2～3感想ですが、上流のほうで、河川堤防の未整備なところがあるということ、初めて知りました。もっと整備されて、安全な川だと思っておりましたので、今日改めて知りました。それからいわゆる治水と保護との問題がなかなか難しいのではないかと思います。浅見委員のご指摘のとおり、エノキ・ムクノキ林が何年かに1度なくなると、あれがどうなるんだろうということを感じました。将来大きくなりますと、どういう林になるんだろう。これから、少しずつ手を加えていくとかいろいろ問題がまだまだ残ってそうな気がします。それから揖保川について、身近におりながら、それが身近なものであるだけに貴重なものであるということ、我々は知らなかったというのが事実だと思います。もっと一般の市民にもこれが貴重だということ、をどんどんPRしないといけないのではないかと。地元の人と川との関わりや、貴重な生物などにつきましてももっとPRしていきたいと思っています。以上です。

中元委員 私は榎田委員ほどではないですが、川を上流から下流まで何度も往復したつもりでいましたが、今日いろんな話を聞きまして揖保川というのはこんな川だったんだなということにつきまして、改めてその深さを知りました。その中で一番象徴的なのは、上流にある木が下流に生えているということです。ああいう話を聞きますと、やはり揖保川というのは上流から下流まで1つにつながっているということを非常に強く感じました。ですから、それぞれの地区でいろんな要望があると思いますが、それをそれぞれのところで単独で考えるのではなく、1つのテーマについて、上流からはこう見る、中流からはこうだということを出し合い、全体で討議をしていくということが大事なのではないかと思いました。

それから、景観が美しいところが非常にたくさんありましたが、皮肉なことにそういうところは危険な場所もあり、危険だと思う所がきれいな訳です。ここは安全で、整備もきちんとしていてというところはあまり感動しないという面があると思いました。これはやはり我々の感じ方というのがそういうふうになっているからだと思います。そういう中でも、やはり安全対策・

洪水対策は欠かすことはできないわけですが、できるだけそういう感情をきちんと踏まえた上で計画・プランニングをしていかなければならないということを感じました。

それから皆さんがおっしゃっていましたが、地域住民と一体になって取り組んでいくことが必要だと思います。そのためには今日我々が知ったような情報をみんなで共有する。情報の共有によって、この川をさらに良くしていこうという気運が生まれてくるのではないかなと思います。共有する情報として、一番分かりやすいのはもちろん環境とか治水の話がいいわけですが、文学的文化的な側面を加えて発信していくと、もっと広く川そのものを知るようになるのではないかなという気がしました。例えば龍野で三木露風が醤油の歌を詠んでおり、その中で、カワラヨモギについて触れています。それから山崎町の高瀬舟の終点のところに大きな蔵がいっぱいあったという話を今日聞きました。「ああ、そうか。どんな風景だったんだろうかな。」というようなことを想像したわけです。例えばあのあたりはこんなふうだったということが分かるような資料があったり、想像図ができたりすると、川に親しみが出てくると思います。そういう情報を次々発信していくということが、我々の責任でもあるのですが、こういう情報をもっと集積していく必要があるかなというふうに思いました。

進藤委員 私は地元なんですが、この地域で公益法人の役員をやっていました。10年間ぐらいそんな活動をしていたのですが、今日の視察で揖保川についてこんなに知らないことが多いのか、ということを感じました。浅見委員や他の先生からいろいろ聞いて、あれだけ素晴らしいものが上流から下流までたくさんあることを知りました。故郷の地域のすごく良い資産になるのではないかなというようなことを改めて感じさせてもらった次第です。私は実は産業界の皆さんからちょっと非難を浴びるようなところもあると思うんですが、先ほどから皆さんおっしゃってましたが、自然がどのように営まれているのかを考える必要があると思います。治水、利水、環境整備について考えるのは当然ですが、河川1本だけを捉えるのではなく、全般的な地域の文化とかその他いろんなものをトータルで捉えて考えていかなければならないと思います。今まで河川1本で治水とか利水とか環境とかを考えてきたのではないかなと思われませんが、これではちょっと変な方向に行く恐れがあるのではないかと感じています。全般的な土地利用とか、いろんな面で流域を考えていかなければならないのではないのでしょうか。

それから、今日現地を回らせてもらって思ったことは、川と人との関わりの中で揖保川特有の文化が生まれてきたんだなというのを痛切に感じさせてもらいました。これらのいいところを、これからの世代につないでいくために、何をしたらいいのかを考えていかなければならないと思います。

最後に、今日は私自身個人的に見させてもらいましたが、意識の高い人ばかりでなく、ちょっと語弊があるかも知れませんが、流域の普通の人、つまり特に専門家とかでなく、普通の人も関わられるようなシステムを、いろんな情報を開いていくというようなかたちでつくってほしいのではないかなと思います。

田中丸委員 今日はどうもありがとうございました。私は揖保川流域をみたのは今日が本当に初めてで、いろいろ参考になることばかりでした。1日という短い時間内に要所要所を見られるようにということで、資料づくりなどの準備をしていただき、また説明された先生方も事前に資料づくりに協力されておられ、そういうことで非常に効率的に視察できたかなと思います。それにまずお礼を申し上げます。既に皆さんがいい意見をおっしゃったんで、今後どうこの委員会を進めていくべきかということについての感想を言うことにさせていただきます。

貴重な資産を将来に残すという話が何度も出てきまして、子どもたちに対して資産を残すという話も出てきました。その資産というのは地域住民にとっての資産ということになります。この委員会はいろんな層の方で委員が構成されているとはいえ、地域の総意を代表する集団ではないと私は思います。ですから委員会とは別に、地域の方々がどういうことを河川整備に望んでおられるかということ調べる手立てを考えることが重要です。既に調べておられるようでしたら、どういうふうにそれを整理して委員会に出していただくかということを考えていただく必要があると思います。またその地域の方たちの要望というのも、下流の人は上流のことを知らないとか、上流の人は下流のことを考えないというようなことも往々にしてありますので、そのとおり要望をかなえることは必ずしも良いとは言えない面があります。だからこそ、専門家が集まるこういう委員会が意味を持つかとも思いますので、行政の意見や地域の方の意見をこの委員会等ですり合わせ、どうあるべきかと考えていけばいいのではないかと考えています。その意味で、まず地域住民の方が、良いか悪いかは別にして、何を望んでおられるかということ調べる必要があるかなというふうに感じました。

中農委員 どうも今日はありがとうございました。中農です。私も実は揖保川を視察したのは今日が初めてです。これだけ上流から下流まで歩いたのはということです。結構この揖保川も特徴があって、歴史・文化もあるし、当然そこでの地域の人たちとの関わり合いというものもありますし、そういう揖保川の特性をこれからどういうふうに生かしていけばいいのかなということを考えていました。ちょっと3点ほどあるのですが、1点はその特性をどういうふうに活用するかということです。基本的には3つぐらいあって、一つは、一切触らないという整備があります。整備と云って必ずしも手をかけるのが整備ではないわけですから、一切触らないという整備の仕方もあります。それはどちらかというと生物であるとか植生とかそういうものの為というものでもあります。一方ではやはりそこに人が生活しているわけですから、やはり人のためにいかに活用していくかという整備があるかと思っています。それとその中間として、双方が共存するような整備の仕方があります。大きくはこの3つぐらいあるのかなという中で、やはり私自身、子どものころ、川で遊んで育った人間なのですが、本当に今の川を見ていますと、どうなのでしょう。私たちが子どもの頃遊んだ川とはずいぶん変わっているなと思います。私は揖保川ではなく、市川という所で育ったのですが、もっと遊びやすかった、というか近づきやすかったと思います。昔からこういう木も川の中に生えてたりしていましたので、そこで陣地を作り、大雨が降ったら流されて、河原に落ちている木でまた陣地を作ったり、という遊びをしていました。

昭和 28 年生まれですので、私よりせいぜい 10 歳下ぐらいまでがそういう川で遊べた年代かなと思います。それ以後の子どもたちはおそらくそんなに遊んでないのではないのでしょうか。だから、是非そういうふうな空間というのを作りたいという思いがあります。

2 点目なのですが、流域にはいくつかの市町村があるんですけども、その市町村の行政、またいろんな町づくりの運動をしている方々が、この揖保川をどういうふうに考えておられるのか。例えば山崎町であれば、山崎町としてこの揖保川をどういうふうに活用したいと思っておられるのか。おそらく総合計画の中で述べられていると思いますが、その内容を聞いてみたいと思っています。やはりそういう町づくりと川との関係をしっかりと位置付けていく必要があるのではないかと思います。

それから 3 番目は先ほども少し話がありましたが、やはり川だけで頑張っても限界があります。というのは、栗栖川だったと思いますが、現況は 1 秒間に 300 トンの処理能力がある。しかし 100 年に 1 度の洪水の場合に 600 トンの水が流れる。倍になるわけです。倍になるとなれば、どうやっても今の川の状況を残すことはできません。欧米の事例、例えばスイス・ドイツの事例を見てみますと、やはり面的に処理しています。例えば、今日国民宿舎の駐車場に車が止まってましたけれども、ああいう駐車場なんて徹底して雨水が地下浸透するような形で整備しています。やはり面的に治水をやっていかないと、治水を川だけに押し付けては絶対に限界があります。そのためには、さきほど言った流域の市町村の取り組みが求められます。東京のほうでは公園の地下にタンクを作ったりとかしていますが、少なくとも流域市町村の公共施設には雨水を貯めるタンクを作るとか、そういう工夫なんかも求められるのではないかなと思います。

庶務 どうもありがとうございました。それでは残り時間で次回の 27 日の委員会で、庶務としてどういったものをご用意させていただいたらよいか、どういった情報・資料等を集めて提示させていただいたらよいかという点について、ご発言願えればと思います。申し訳ありませんが、藤田委員長、ご意見を集約していただき、まとめを庶務に指示いただければと思います。よろしく願いいたします。

藤田委員長 多分今のご発言の中から何点は、これから検討していく問題も入ったと思います。流域委員会の仕事として、揖保川を見て勉強するというのはあくまでファーストステップであるというふうに私は理解しております。やはり河川整備計画等が出きた時に、委員会がそれに対してどういうふうにアドバイスしていくかということが重要で、そのためのポテンシャルを上げておかなければならないと思います。その 1 つが川を見て勉強しようということで、本日は流域を視察し、非常に勉強になったのではないのでしょうか。多分ほとんどの委員の先生方、がそういうふう感じられたのではと思います。そういう意味で第一段階の、まず上流から下流まで視察し、流域のことを勉強しようというところは、ある程度は達成したのではないのでしょうか。完全かどうかは別として達成したのではないかなと思います。ではその次にどういうふうなことをすればよいか、ここからが分かれるところだと思います。例えば浅見委員は自然をずっと

見てきておられます。たくさんの方が受け取る自然というのは、上流におられる方、中流におられる方、下流におられる方、それだけではなく自分が持っている自然に対する原風景みたいなものがみんな違うのではないのでしょうか。それぞれが違う思いを持ったまま、今度何か具体化しようとしても、とても切りようがないのではと思います。そういうことから言いますと、自然とは何かということをご皆さんでもう少し勉強していくということも、1つ我々としてはやっていかなければならないことではないかなという気がします。それは自然だけではなくて、川が持っているいろんなものを勉強していくということとつながっています。山が大事ですよというご意見が出ましたが、では、そのあたりを次に流域委員会のテーマとしてどうするのかということになってきますと、私の方でもまだ考えておりません。何かいいお知恵があれば教えていただきたい、というか、もう一度整理をしなおすという意味からも「こういうことを一番始めに取り上げたいかがでしょうか」というようなことを委員の先生方からお聞きすればいいのではないかなという気がします。それが1点です。

それから、今お話いただいた中にもあったと思いますが、情報を流域委員会で持っているだけではなくて、共有していくには、どうすればよいか。どういうふうにするか。メディア論ではなく、むしろコミュニケーションの仕方をもうちょっと考えていく。それも1つのテーマにもなると思います。我々が委員会で情報を集め、どういうふうに流域の住民の方とコミュニケーションをしていくか。流域の情報を集めることは大事です。それから、私はメディア情報は専門ではありませんが、よく言われているように内容・コンテンツを考える必要があります。それから相手に対してどう伝えていくかというコミュニケーション。そのあたりのところが出てくるなあという気がしています。いわゆる河川情報をどういうふう集め、咀嚼し、伝えていくか。これも1点だろうなという気がします。

流域委員会としてどうするべきかというのはちょっと考えているんですが、よく住民参加と言いますが、住民の意見をどうやって汲み上げるのかということがあります。先ほどのコミュニケーションのところでも双方向にすればいいのではないかという話もあると思います。ただ、そうは言いますがこの流域委員会の中の規約には一般の方の傍聴を認めておりまして、また傍聴された方からの意見を聞くという内容も盛り込んでおります。そのあたりのところをどういうふうに委員会として活用していくか。それも課題だと思えます。何回かやっていると、殆ど意見が出なかったりとか、あるいは時間がなくてごめんなさいといった場合もあります。そういうものをどういうふうに吸い上げていくかということが課題として残っている気がします。私が忘れていたこともあるかも知れませんが、それから充分理解しないまま聞いた点もあったかも知れませんが、だいたいそんなところぐらいが次回から検討していく問題・課題ではないかと思えます。その他にもまだ具体的な整備に関する発言はありましたが、それは少し先の検討になるのではないかなということで取り上げなかったものもあります。

浅見委員はいかがですか。自然というのはちょっと問題が大きすぎるでしょうか。具体論としてこういうふうなことをやれば少しそこに近づけるとか、そんなことがあればアドバイスしていただけますでしょうか。

浅見委員 大変難しい質問ですが、自然といった時にいろんな捉え方がありますが、今日の視察を終えてある程度流域委員会のメンバーの方の方向性としては定まっていたのではないかと感じています。その時、上流・中流・下流・河口というのをどうするかたちで守っていけばよいのかというあたりが問われているのではないかと思います。1つは町の意見を聞くとか住民の方の意見を聞くときに、こちらから十分な情報発信をしておくことが重要と思います。そうしないと、やすらぎのある公園とか川とふれあえる公園というふうな抽象的な言葉で表現されて終わってしまいますので、そういう時に、いかにこちらから情報を発信し、その上で意見を汲み上げるかということが大事ではないかと思います。

もう1つは、地元の方の意見というのは、ここで言わなければどこで聞いてもらえるか分からないというのがあったりして、委員会の中で発言されることもあると思います。その時に流域の中で見てここが大事なんだということを、かなりこちらから強く、流域委員会側から強く打ち出すのも必要なのではないかと考えています。

森本委員 現地を見せてもらいまして思ったんですが、川の整備に力が非常に入っているところがあるかと思えば、戦前からこのままではないかと感じる場所も山崎町なんかにはたくさんあると思います。なんで昔のまま今まで残っているんだろうなあということを考えたとき、川に手を入れることに対して、地元には非常に反対論もあるということだと思います。例えば、東側には田んぼがあって、そこに住んでいる人が護岸整備をしようと言った場合、西のほうの人は、こちら側にも家があるし、今までそんなに水に侵ったこともないし、このままでいいのではないかと、というような意見の違いがあって、できないのではなかと感じるんです。だから、このところは費用をかけて理想に近い整備をしているなあと思うようなところもあるし、そうでないところもあります。そのところが問題ではないかと思います。役所の方でご存知のこともあると思いますし、そういうところからもお話いただいたらいいのではないかと思います。

藤田委員長 具体的な河川の整備の内容のところでは、おそらく利害等が絡んでくるということもありますので、そのあたりの審議において、考えていかなければならないことだと思います。

中農委員 先ほどもちょっと言いましたが、やはり流域の市町村の方のお話を聞きたいなと思います。この委員会の中でこれができるのかどうか、委員会の中でそれぞれの市町村の方に来ていただいて、自分のところは揖保川のこの部分をこうしたい、ああしたい、自分たちの町づくりの中でこういう位置付けをしているとかということです。今、現に国土交通省さんと龍野市さんが、一緒になって検討されているようなケースもあるようですが、そのあたりの市町村の考え方を聞く場というのがあると、それでお互いキャッチボールができるのではないかと思います。必ずしも市町村が住民の意見をすべて集約しているとは言えないかも分かりませんが、少なくとも

も行政がどういう考え方を持っているのかということを確認しておくべきではと思います。

藤田委員長 非常に具体的なご提案ですが、そのへんはもしできれば取り上げていきたいと思います。河川管理のほうでも、前提となるプランとか、技術的な問題とかもあると思いますので、どれを取り上げればいいのかということには、これからご相談しながらということになると思います。その他、何かございますか。なければ、庶務の方に戻します。

庶務 改めて、皆様お疲れ様でした。また来週の5月20日には4名の委員の方に参加していただき、同じコースを視察していただくことにしております。27日の委員会までに20名の委員の方全員に現地を同じように見ていただくことになっておりますので、その結果を含めて次回委員会の中で、議論していただくことになるのではないかと思います。また後日、全員の方の感想とご要望をお聞きした上で委員長と庶務とでご相談させていただき、次回の山崎で行われます第2回委員会の審議項目を出していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

27日の第2回委員会は、山崎町の山崎防災センターで14時から16時の2時間という予定で開催をすることとしております。この週末に、流域の各世帯に新聞折り込みで配布し、同時に各市町村に送付して、公共施設等にポスターを掲示していただけるように印刷をかけております。もう2～3日中に皆さんのお目にも触れると思いますのでよろしくお願いいたします。

それではこれにて感想発表会を終わらせていただき、ここで解散ということにさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。